

果樹カメムシ類情報第3号（ナシ・カキ・カンキツ）

令和8年9月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

誘殺数が増加し、果実への被害も確認されています。
ほ場における飛来状況をよく確認し、防除しましょう。

1 発生状況等

8月18日に令和8年度病害虫発生予察注意報第6号（果樹カメムシ類）を発表したところですが、その後も果樹カメムシ類の発生が多い状況が続いています。

- (1) 8月下旬に県内11地点22ほ場（カキ）で行った巡回調査において、果樹カメムシ類による被害果率は平均2.68%（平年0.92%、前年0%）と過去10年と比較して2番目に高い状況でした。
- (2) 新城市に設置した予察灯における、7月第6半旬から8月第5半旬までの誘殺状況は、チャバネアオカメムシ362頭（平年109頭、前年109頭）、ツヤアオカメムシ239頭（平年36頭、前年15頭）で、過去10年と比較して最も多く、クサギカメムシ563頭（平年253頭、前年83頭）で、過去10年と比較して2番目に多い状況でした（図1）。
- (3) 蒲郡市に設置した予察灯（令和6年調査開始）における、8月10日から8月26日までの誘殺状況は、チャバネアオカメムシ94頭（前年1頭、前々年93頭）、ツヤアオカメムシ172頭（前年1頭、前々年63頭）、クサギカメムシ31頭（前年11頭、前々年13頭）で、過去2年と比較して最も多い状況です。

8月27日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高い見込みであり、果樹カメムシ類の活動に好適な条件となるため、注意が必要です。

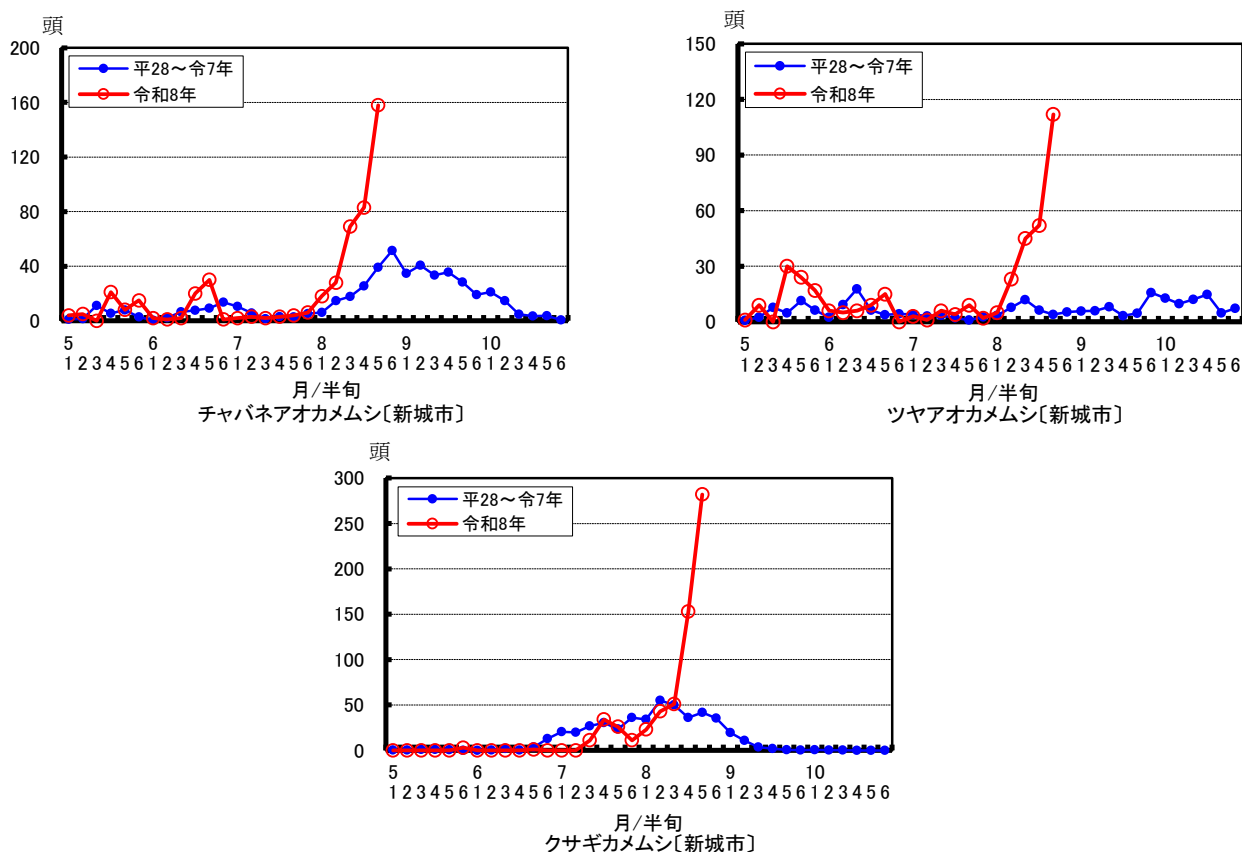


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況

2 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は、夜温が高く風の弱い夜に果樹園へ飛来することが多い点を参考にして、ほ場での飛来状況をよく確認しましょう。局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、被害の発生状況は園地間差が大きくなります。過去に果樹カメムシ類の被害が多かった園や山林に近い園では特に注意が必要です。
- (2) 台風等による強風が発生した場合、突然、果樹園へ多数飛来する可能性があるため注意しましょう。
- (3) 飛来を確認したら、ネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤など各作物で登録のある薬剤で防除しましょう。なお、合成ピレスロイド剤を連続使用すると天敵への悪影響が大きいため注意しましょう。収穫中のほ場における薬剤の使用にあたっては、収穫前日数に注意して下さい。

参考：農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp>)



図2 カメムシ被害果実（左：カキ、右：ナシ）